

現行計画から見る現状の課題

目標／取組／指標	上尾市の地域福祉をめぐる課題（市民アンケートより） ※<>内の Q は今回の問番号、q は前回の問番号を表している
基本理念 誰もがつながり支え合って安心して暮らせるまち 上尾	
基本目標1 誰もが福祉サービスを利用しやすい地域づくり【P52】	
取組 1 福祉サービスの充実と利用促進【P52】	
指標 1 福祉サービスの充実【P53】	4割の人は福祉サービスを利用しており、高齢者、障害者とも5割の人は安心の暮らしのために「在宅サービス」を必要としている。サービスの利用支援については、満足していない人が満足している人よりも多いことから、利用支援の改善とともにサービスの充実が必要である。 ・福祉サービスを「利用していない（したことがない）」は60.5%（前回：65.7%）。<Q30> ・市や市社協の福祉サービスの利用支援について、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足』は15.5%、『満足していない』は20.3%。<Q35> ・高齢者の安心の暮らしのために「在宅サービスの充実」が必要と考えるのは51.9%（前回：52.3%）。<Q37/q39> ・障害者の安心の暮らしのために「在宅サービスの充実」が必要と考えるのは50.4%（前回：47.3%）。<Q38/q40>
指標 2 情報発信体制の充実【P54】	福祉サービスについて知らない人が3割弱おり、この割合は5年前から変わっていない。必要な情報を入手できるようにするための体制整備が必要と考える人は4割を超えていることから、情報の受け手の特性を踏まえたきめ細かな情報提供が求められる。 ・地域の課題として「福祉保健サービスについて知らない」は27.9%（前回：28.5%）。<Q15/q15> ・福祉サービスに関する情報の入手手段の1位は「市の広報紙、チラシなど」で49.6%（前回：54.9%）、2位は「インターネット」で16.8%（前回：14.6%）。但し高齢者ほど「インターネット」は少なく「新聞・テレビ・ラジオ」が多くなっている。情報を「入手していない」は23.5%（前回：22.8%）。<Q31/q31> ・市社会福祉協議会に期待する活動として「福祉サービスに関する情報発信の充実」は28.4%（前回：26.9%）。<Q34/Q36> ・地域での暮らしをより豊かにするために「必要な情報を入手できる体制の整備」が必要と考えるのは41.9%（前回：41.8%）。<Q36/q38>
指標 3 権利擁護の推進【P55】	成年後見制度について内容まで理解している人は2割程度に留まっている。より利用しやすい制度内容となることに合わせ、改めて周知活動を行う必要がある。 ・成年後見制度について「内容まで知っている」のは21.5%、「聞いたことはある」は42.2%。上尾市成年後見センターを「知らなかった」は63.5%。（Q9）
取組 2 すべての人を受け止める相談体制の充実【P58】	
指標 1 包括的な相談体制の構築【P59】	内容も含め「ふくしの窓口」を知っている人は1割に留まっている。相談窓口に期待される「身近で気軽に」相談できる窓口として一層の周知を図る必要がある。 ・市の総合相談窓口「ふくしの窓口」を「内容まで知っている」は11.3%、「知らなかった」のは43.5%。（Q9） ・市社会福祉協議会に期待する活動として「気軽に相談できる福祉相談窓口の充実」は42.2%（前回：44.1%）。<Q34/q36> ・地域での暮らしをより豊かにするために「日常生活に関する身近な相談窓口の整備」が必要と考えるのは28.3%（前回：29.7%）。<Q36/q38>
指標 2 関係機関との連携【P60】	介護と医療が連携を求める機関として浮上している。地域包括ケアシステムの更なる充実とともに、高齢者の見守りと医療の連携も検討が求められる。 ・高齢者の安心の暮らしのために「介護と医療の連携」が必要と考えるのは 44.0%（前回：43.3%）。<Q37/q39> ・[自由記述] これから増々1人暮らし世代が増えると思われます。健康管理、孤独死のないように何らかのネットワーク作りが必要ではないか。（60代 女性）
指標 3 困難を抱える人への支援【P61】	昨今の物価高騰により、新たに生活苦を訴える人が生まれている可能性がある。相談体制に課題があることがうかがえる。 ・地域の課題として「困っていることを相談できない人がいる／困っていることを相談できない」は7.7%（前回：9.1%）。<Q15/q15> ・地域の課題として「生活に困っている人を見たり聞いたりする／生活に困っている」は5.2%（前回：4.0%）。<Q15/q15> ・地域の課題として「物価高騰により経済的に生活が苦しい／物価高騰で生活が苦しいと聴くことが増えている」は29.5%。<Q15>

目標／取組／指標	上尾市の地域福祉をめぐる課題（市民アンケートより） ※<>内のQは今回の問番号、qは前回の問番号を表している
基本目標2 誰もが安心・安全に暮らせる地域づくり【P65】	
取組3 外出しやすい環境づくり【P65】	
指標1 バリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進【P66】	道路や建物のバリアフリー化が必要と考える人は2割に満たないが、5年前とほぼ同等であり、市民意識に顕著な改善はみられない。 ・地域での暮らしをより豊かにするために「道路や建物のバリアフリー整備」が必要と考えるのは16.7%（前回：17.6%）。<Q36/q38>
指標2 移動手段の確保【P67】	3割を超える市民が、移動手段に不便を感じ、外出しやすい環境づくりに満足せず、バスなどの公共交通機関の整備が必要と考えている。不満の程度は5年前よりも強くなっていることがうかがえる。 ・ふだんの移動手段について不便だと感じるものが「ある」は17.8%（前回：13.7%）、「たまにある」は13.4%（前回：18.4%）、「ない」は65.8%（前回：65.0%）で、前回から明確に「ある」との回答が増加。<Q28/q28> ・誰もが外出しやすい環境づくりについて、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足』は18.0%、『満足していない』は36.5%と『満足』の2倍。<Q35> ・地域での暮らしをより豊かにするために「バスなどの公共交通機関の整備」が必要と考えるのは36.9%（前回：30.2%）。<Q36/q38>
取組4 地域防災・地域防犯の推進【P69】	
指標1 地域防災力の向上【P70】	自主防災組織への加入や災害発生時の住民同士の協力を消極的な市民が増えている一方で、地域の防災機能の強化について「満足していない」が「満足している」よりも圧倒的に多いが、地域防災についての当事者意識が薄くなっている。 ・自主防災組織に入っている世帯は27.3%（前回：27.4%）、入っていないかわからない世帯は35.9%（前回：22.3%）。<Q24/q25> ・今後、自主防災組織に入りたいかで「はい」は12.5%（前回：16.2%）、「いいえ」は34.1%（前回：31.7%）。<Q24-1/q25-1> ・地震などの災害時に住民同士が協力し合えるために必要なことについて「避難計画を地域みんなで考える」「地域での自主防災組織づくり」「地域での定期的な防災訓練」「地域での勉強会」のいずれの回答も前回調査より減る一方、「福祉サービス事業者や行政との連携」「特にないと思う」は増えている。<Q25/q26> ・地域における防災機能の強化について、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足』は13.2%、『満足していない』は31.5%と『満足』の2倍以上。<Q35>
指標2 防犯活動の推進【P71】	治安の悪化を懸念し、地域の組織や団体に防犯のための活動を求める市民が増えている。 ・地域の課題として「犯罪の増加」は17.4%（前回：12.6%）。<Q15/q15> ・地域の身近な人から受けた支援について、「防犯のための巡回」が「受けた」「ときには受けた」を合わせると53.8%（前回：55.9%）。<Q14/q14> ・地域の中で安心して暮らしていくために、地域の組織や団体に期待する活動について、「交通安全や防災・防犯などの活動」は41.2%（前回：37.8%）で、前回よりも増加。<Q41/q42>
取組5 見守り・声かけによるつながりの確保【P74】	
指標1 見守り支援の推進【P75】	安否確認や見守りへのニーズが高い一方で、現状の満足度は低い。活動や体制整備の必要性に対する意識も低下傾向にある。 ・地域の身近な人から受けた支援について、「安否確認の声かけ」が「受けた」「ときには受けた」を合わせると56.3%（前回：51.8%）。<Q14/q14> ・地域における見守り・声かけによる安全の確保について、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足』は13.0%、『満足していない』は26.8%。<Q35> ・高齢者の安心の暮らしのために「地域での声かけ・見守り活動の実施」が必要と考えるのは24.7%（前回：27.9%）、障害者については20.1%（前回：22.7%）。<Q37, 38/q39, 40> ・地域での暮らしを豊かにするために「ネットワーク作り、見守り体制の整備」が必要と考えるのは8.6%（前回：10.0%）。<Q36/q38>

目標／取組／指標	上尾市の地域福祉をめぐる課題（市民アンケートより） ※<>内のQは今回の問番号、qは前回の問番号を表している
指標2 孤立化の防止【P76】	支え合いや孤立防止のための個人情報共有に対して、否定的な意見が増え、肯定的な意識が低下傾向にある。 ・地域の課題として「地域から孤立している人がある／地域から孤立している気がする」は6.4％（前回：8.4％）。<Q15／q15> ・地域での支え合いや孤立死の防止などのために必要な個人情報を自治会などが共有することについて、肯定的回答は65.5％（前回：70.7％）、否定的回答は22.7％（前回：19.2％）<Q17／q18>
指標3 虐待の防止【P77】	地域における虐待(子ども・高齢者・障害者)への懸念が微増。いじめや虐待についての防止対策の充実を求める声がある。 ・地域の課題として「子どもや高齢者、障害者に対する虐待を見聞きする／虐待されている／虐待してしまう」は1.8％（前回：1.7％）。<Q15／q15> ・保健・福祉について充実してほしいことについての自由記述に、「いじめや虐待に対する防止対策」。<Q32>
基本目標3 誰もが役割を持つことができる地域づくり【P80】	
取組6 支え合いの意識づくり【P80】	
指標1 地域福祉への意識の醸成【P81】	「地域福祉」の認知度や地域の課題への関心が低下している。地域活動への不参加理由として「わずらわしさ」が増え、今後の不参加意向も高まっている。 ・「地域福祉」を内容まで知っているのは10.9％（前回：16.1％）、「知らなかった」は30.5％（前回：28.4％）。<Q9／q9> ・地域の課題に「とても関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせると61.1％（前回は69.1％）。<Q16／q17> ・地域活動等に参加したことがない人は63.1％（前回：64.7％）で、その理由が「わずらわしい」は12.8％（前回：11.4％）。<Q19, 19-2／q20, 20-2> ・今後、地域活動等に「参加するつもりはない」は15.8％（前回：10.0％）。<Q21／q22>
指標2 交流の場・居場所によるつながりづくり【P82】	近所や世代間の交流不足、集まる場の少なさが課題である一方、交流の場の必要性への認識は十分高まっていない。 ・地域の課題として「隣近所との交流が少ない」は23.3％（前回：25.7％）、「世代間の交流が少ない」は20.9％（前回：23.0％）、「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」は12.5％。（前回：14.4％）。<Q15> ・地域での暮らしを豊かにするために「地域の人が交流できる場の整備」が必要と考えるのは14.7％（前回：14.3％）。<Q36/q38>
取組7 地域福祉活動の活性化と担い手の育成【P85】	
指標1 健康・生きがいづくりの推進【P86】	健康意識の低さへの懸念はわずかに増えている。一方、障害者の生きがいについての関心が後退していることがうかがえる。 ・地域の課題として「健康に対する意識が低い」は4.4％（前回：3.5％）。<Q15／q15> ・障害者が生きがいを持って暮らすために必要と考えることについては、「身近な相談窓口の整備」と「無回答」以外はすべて前回よりも減少。<Q38／q40>
指標2 地域福祉活動への支援【P87】	地域福祉活動への支援について、「満足していない」が「満足している」よりも圧倒的に多い。 ・活動団体への支援について、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足』は12.4％、『満足していない』は24.5％。<Q35>
指標3 人材の育成・活用【P88】	福祉活動の担い手・人材の育成について、「満足していない」が「満足している」よりも圧倒的に多い。 ・地域福祉活動の担い手の育成について、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足』は12.1％、『満足していない』は25.3％と『満足』の2倍。<Q35>